

当時のイスラム教徒の役割、共産党組織の内実、西ジャワやスマトラ西岸部の当時の社会・政治情勢など、幾つかの重要な問題への解答も含んでいる貴重な文書である。(口羽益生)

Goethals, Peter R.: Aspects of Local Government in a Sumbawan Village (Eastern Indonesia). (Monograph Series, Modern Indonesia Project). Southeast Asia Program, Cornell University, Ithaca. 1961. pp. vii + 143

コーネル大学の Modern Indonesia Project 並びに Southeast Asia Program の director であり、又近代インドネシア政治史研究の指導的地位にある G. McT. Kahin 教授は、かつて、現代インドネシア研究において、最も未開拓な分野の一つは、地方の社会、政治経済情勢の研究であると述べたことがある。本書は、コーネル大学 Modern Indonesia Project の monograph series の内で、地方の社会政治情勢を取扱った最初の報告である。

社会人類学者である著者 Goethals は、1954年より二年間、Sumbawa 島北端の農村 Rarak を中心に、集約的な現地調査を行ったが、本書は、その調査報告の一部であり、題名が示すように、分析の焦点は、社会政治情勢に置かれている。

インドネシアの歴史を振り返って見れば、容易に理解されることであるが、イスラムの浸透した地域では、オランダ植民地政府の分割統治や間接統治の政策とも絡んで、伝統的な adat (慣習) 首長とイスラムの指導者 kijaji (ulama) の勢力間の力関係が絶えず問題にされている。17世紀にイスラムが到来した Sumbawa でも同様である。Goethals は、Rarak の adat 勢力と hukum (イスラム法) 勢力間の力関係の社会的基盤の分析を試みている。

村落レベルの adat 勢力は、旧制村長 (kepala kampong) によって代表されるが、この村長の役割が地方自治体の公式的なものに限られ、漠然としたものであるため、彼の村民に対する直接的影響力は弱い。1951年の村落合併による村連合 (gabungan) の確立は、村長の地位を更に不安定なものにしている。kepala kampong の役職名も wakil kepala gabu-

ngan (助役) に変わっている。

hukum 勢力の代表者は、村の mosque の責任者である lebé であるが、lebé は、ジャワの penghulu に当る。lebé を長とする mosque 役員 (isi mesigét) には、その他に、rura, pengulu, mudom, ketib, marbat 等が居る。彼らは、婚姻、相続、死亡に関する手続きの指導監督、mosque での礼拝、その他の儀礼を通じて、村民と密接な連がりを持っている。注目されることは、彼らは又、呪医の (sanro) 役割をも演じていることである。1955年の総選挙では、政治的に、インドネシアは、主に四つの政党 (国民党、Masjumi 党、NU 党、共産党) に色分けされたのであるが、Rarak においては、hukum 勢力が Masjumi 党を支持して圧倒的に強い。adat 勢力は、イスラム保守の NU 党を、一部青年層は、国民党を支持している。Masjumi 党は、本来、知的、進歩的なイスラム革新派の政党と特色づけられているが、Goethals は、それが、Rarak においては、文盲率の最も高いイスラム保守派によって支持され、インドネシア地方政治の社会的基盤は必ずしも全国レベルと合致しない点を明確に指摘している。(口羽益生)

Geertz, Hildred: The Javanese Family, A Study of Kinship and Socialization. The Free Press of Glencoe, N.Y. 1961. pp. xii + 172

本書は、MIT 国際研究センターにおける Java project (1951-53) の成果の一部である。同プロジェクトでは、七人の社会学者並びに人類学者が、夫々、村落、市場、政治・階級構造、家族、華僑社会、言語のテーマを担当し、東ジャワ、スラバヤの南方、ブラントス河流域の人口約1万8千人の Modjokuto という仮名の町を中心に二年間の現地調査を行っている。この調査成果は、既に、調査員の学位論文として報告済みであるが、書物として最初に出版されたのは、前号の図書紹介欄にて紹介した C. Geertz の「ジャワの宗教」であり、Geertz 夫人の本書が、二番目のものである。同夫人は、ハーバード大学、加州大学、MIT などで、研究員又は instructor として活躍しておられたが、目下、主婦として「家庭づくり」に専念しておられるようだ。

副題が示すように、本書では、ジャワ人が、mature